

3月定例会

予算等審査特別委員会



夜にも聞いてみたい昔話

夜の遠野型観光について

**問** 市内の若者たちと遠野の観光について意見交換会を持った。そこで遠野の夜の観光を売り出すべきという意見が出された。それは、昔話は夜に語られていたのだから、曲家で囲炉裏を囲みながら聴き、外の見えない闇を感じてもらおう。その結

果、観光客が市内に宿泊してくれる、等の着地型観光のヒントになるような貴重な意見を頂いたが、当局の考えは。

**答** 「ざっくばらんに夢を語る会」で夜の観光についての他にも多くの意見があったことは理解している。すぐやれること、すぐに生かされること等については、積極的に取り組んでいきたい。

農産物加工施設について



**問** 農産物加工施設の進捗状況について伺う。

**答** 営農組織体とJAとで実施設計に向けて協議中である。

**問** その事業主体はどこか。また、多くの農家の方々も利用を求めていると思うが、その利用料金は。

**答** 宮守川上流生産組合が行う予定となっている。利用料については、以前JAが行っていた料金を中心に検討中である。

**問** この事業について、以前はJAも一体となっていたが、JAの負担は。

**答** 応分の負担となる。

農林水産振興ビジョンについて

**問** タフビジョンでは、販売農家3千戸の中のどこに主体を置いて農家所得の向上を目指すのか。

**答** 専業農家をまず支援していきたい。もう一つは集落単位で取り組んでもらう事で、農地の活用とか、高齢者・女性労働力の活用への支援をしていきたい。

**問** 高収益販売農家拡大等のためにアドバイザー配置による支援体制充実とあるが、どのようなアドバイザーを考えているのか。

**答** 作物栽培の指導・販路担当1人、新規就農・後継者育成掘り起こし担当1人、担い手担当1人、農地利用集積担当1人の4人を考えている。

**問** 畜産について、繁殖、肥育一貫した体制への移行とあるが。

**答** 市内でも肥育農家があるので、繁殖・育成・肥育・販売まで一貫した生産体系を構築していきたい。それがブランド化に繋がっていく。大手量販店と組んで、肥育したものを遠野産牛として販売する組立てを検討中である。

**問** このビジョンを実践するのは農家であり、情報の共有をきちんとやるべきである。農家の参画がビジョンの中にないと農家はこういうモチベーションでこのビジョンにチャレンジしていくのか見えてこない。

**答** 宮守ホールで「みんなで語ろうタフビジョン」のテレビ討論会を開催した。様々な意見等もこれまでもいただいております。今後とも農家の意見を取り入れながら、このビジョンを策定していきたい。